



子どもの受動喫煙



タバコの煙が健康に悪い、ということは皆さんご存知だと思います。

佐藤小児科で行なった生後3~4ヶ月・7ヶ月・1歳児健康診査の中で、各家庭の喫煙率は全体の38%を占めていました。(H29年4月~H30年3月までの調査期間)

子どもは大人に比べ呼吸器や中枢神経の発達が未熟であるため、受動喫煙から受ける健康被害は、大人以上に深刻です。子どもたちの健康と将来を守るために、タバコの害について考えてみましょう。

受動喫煙とは…

他人が発生させるタバコの煙、またはタバコを吸っている他人の吐く息に含まれる煙(肉眼で見える煙に限らず、残留するタバコの臭気その他の排出物を含む)にさらされることをいう。

(東京都子どもを受動喫煙から守る条例より一部抜粋)



赤ちゃん

日常的に受動喫煙にさらされている赤ちゃんは、気道の炎症を生じやすく、肺炎などの呼吸器疾患にかかりやすだけでなく重症化して入院する率が高くなります。

また受動喫煙は、それまで元気だった赤ちゃんが突然死亡してしまう乳幼児突然死症候群(SIDS)と関係があるといわれています。

タバコを誤って食べてしまう事故も起こります。



タバコはさまざまな病気を引き起こします



幼児

幼児も赤ちゃんと同様に、鼻水や咳、たんなどの呼吸器症状や気管支炎・肺炎・気管支喘息などです。特に気管支喘息はタバコを吸わない家庭と比べて、喫煙者のいる家庭では約3倍に増えます。

また、受動喫煙の影響で耳管が腫れて中耳炎にかかりやすくなることも指摘されています。



子どもから離れてタバコを吸っても、完全にタバコの害から守ることはできません!



換気扇の下でも・・・

タバコの煙は、換気扇ですべて排出されることはなく、室内に拡散します。

例えば、台所でカレーを作る時に換気扇を回しても、室内にカレーのにおいが残るように…。

ベランダで吸うから大丈夫?

窓を開けて屋外のベランダで吸ったとしても、タバコの煙は窓の隙間をとって室内に入り込みます。また、外で吸っても吐く息や洋服に付着した有害成分の影響を受けるので予防にはなりません。



三次喫煙 (サードハンドスモーク)

喫煙室に入るとカーテンやソファなどがタバコくさくなっていたり、タバコを吸う人の髪の毛や服がタバコくさいと感じることがあります。この臭いは、付着したタバコの煙の成分であり、それには有害成分が含まれています。その有害成分を吸い込んでしまうのが、**三次喫煙**であり、受動喫煙と同じく周囲の人に悪影響を及ぼします。

